

2022 年 8 月
P1814
Food Miles per Gallon
ガロンあたりのフード・マイルージ
Relevance:
Infrastructure

Organization

Talent

Creation

Marketing

Timing:

Initiate

Monitor

Watch

 By Guy Garrud (Send us [feedback](#))

Description

グローバルなフード・サプライチェーンは、研究者の予測をはるかに超える量の二酸化炭素を排出している可能性があり、食料供給による排出量の削減に対する関心が高まっている。考えられる 2 つの解決策は、より環境に優しい輸送方法を採用すること、そして、より多くの食料を地産地消することである。

例えば、垂直農業技術であれば、生産者と消費者間の距離が劇的に短縮され、都市部でもスケーラブルな農業が確実に実現可能となる。一部の作物は、栽培要件が厳しい（栽培可能地域に制約がある）、または収穫後の保存期間が短いことから、さらなる課題をもたらす。

Abstracts that Inspired This Pattern
SC-2022-07-06-023 — Reducing Emissions via Sailboat-Shipped Coffee

ヨーロッパのコーヒー焙煎専門店のなかには、南米から化石燃料を使用する船舶ではなく帆船で輸送された豆を提供しているところがある。普段食料品店で買う豆と比べて、間違いなく贅沢だ。「風に吹かれた豆は、日常生活において炭素の排出を見つけ出し、それを一掃するための想像力豊かなアイデアを引き出してくれるかもしれない。」

SC-2022-07-06-054 — Farmers in Hawaii Aim to Restore the Food Forests That Formerly Fed Maui

ハワイ諸島最大の島の一つ、マウイ島は、かつては地元産のさまざまな食品で人口を支えていたが、過去 100 年の間に「世界有数の絶滅都市」となってしまった。18 世紀と 19 世紀には、植民地の入植者が砂糖やパイナップルの工業生産による単作プランテーションを開発し、それが「土壌の栄養素、炭素、水を使い果たし、マウイの人々から食と気候の安全を搾取した」。

SC-2022-07-06-064 — New Study: Food Miles' Climate Impact Is Larger than Researchers Thought

月刊誌 Nature Food の研究で、世界の食料輸送システムにおける二酸化炭素排出量が「以前予測したよりも 3.5~7.5 倍多い」ことが判明した。食料輸送システムの脱炭素化は地球温暖化対策に不可欠となる。それに関連する取り組みは、食料地産を目指した先進技術の採用を後押しするだろう。

本トピックスに関連する Signals of Change

SoC1305 [変わりつつあるグローバル化の範囲](#)
SoC1264 [食料システムのレジリエンス](#)
SoC1251 [気候問題と食料供給](#)

関連する Patterns

P1791 [食料危機と人工的生産技術による解決策](#)
P1787 [新規フードテックは飢えを止められるか？](#)
P1607 [新しい交通環境のための車両](#)